

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

城 和 貴[†] 北 栄 輔 (ゲスト・エディタ)^{††}

自然科学，社会科学を問わず解決されないままで残された問題がいくつか存在します。ハイパフォーマンスコンピューティングの高度利用とそのため新しいアルゴリズムに基づく“高度計算科学の方法論”は，解決されないで残された問題を解決することができます。高度計算科学の方法論は，ゲノム，マイクロメカニクス，環境，分子原子，経済などの多様な分野の研究者によって研究され発展してきました。そのために，異なる分野の研究者が一堂に会して，その成果を披露し，議論を深める機会はありませんでした。“計算科学シンポジウム”は，国内外からの様々な分野の研究者が一堂に会して，高度計算科学の方法論について議論するために企画されました。

シンポジウムでは，内外から 6 件の招待講演をお願いしました。この中には，進化的計算，人工生命・人工社会，ゲノム，経済物理学，構造物最適化，セル・オートマトンについての講演が含まれています。インターナショナルセッションと国内セッションに対しては，理学，工学，医学，経済学などの多様な分野から講演申し込みがありました。インターナショナルセッションでは 7 件の一般講演があり，これらが海外からの招待講演とあわせて 3 のセッションに編成されました。また，国内セッションでは 56 件の一般講演があり，これらが 12 のセッションに編成されました。これらの発表は，いずれも非常に興味深く，かつ重要な研究ばかりで，多数の参加者を交えて活発な議論が繰り広げられました。

こうして開催されたシンポジウムで発表された研究に対して，論文の投稿をお願いしました。本特集号には，最初 27 件の投稿申し込みがあり，その後関連分野における優れた研究者によって厳しい査読が行われました。この過程を経て一般論文として採択された 9 件をまとめて今回の特集が完成しました。採択率は 33%となり，一般の投稿論文の採択率よりもかなり低い採択率となっています。この特集の発刊によって，この分野の研究がますます活発になり，それが社会における

多くの問題解決に活用されることにつながれば幸いです。

最後になりましたが，本シンポジウムの開催にあたって大変お世話になりました，21 世紀 COE 「計算科学フロンティア」の皆様，情報処理学会数理モデル化と問題解決研究会の運営委員の皆様，シンポジウムに共催していただいた名古屋大学の構成員の皆様に厚くお礼を申し上げます。また，論文誌の発刊に際しては論文誌編集委員の皆様，シンポジウムのプログラム委員の皆様たいへんお世話になりました。ここに記して心より感謝の意を表します。

また，シンポジウムの実施にあたりテクノシンポ名大，日比科学技術振興財団から助成をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

TOM16 には，シンポジウム特集以外にも，オリジナル論文として 2005 年 12 月の MPS57 (東京) から 2 本，2006 年 3 月の MPS58 (城崎) から 4 本，事例紹介論文として MPS58 から 1 本の計 5 編を掲載しています。TOM16 に関する MPS57 と 58 の研究会連動投稿の採録論文数/投稿論文数は 2/3, 5/11 で，採択率は 54%となります。

今号の担当編集委員は，伊藤実，北栄輔，木下敬介，小林聡，佐藤彰洋，庄野逸，高木英行，棟朝雅晴，廣安知之，古瀬慶博，Paul Horton，渡邊真也となっています。

配布部数につきましては 900 部を予定しております。なお，論文誌の定期購読制度もありますので，ぜひ，こちらをご利用ください。また，研究会開催記録，研究会登録案内，投稿案内などに関する最新の情報はすべて WWW ページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ (<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>) よりたどることができますので，MPS 研究会および論文誌 TOM に関しては，そちらをご参照くださいますよう，お願い申し上げます。

[†] 情報処理学会論文誌「数理モデル化と問題解決」編集長/奈良女子大学理学部情報科学科

^{††} シンポジウム・プログラム委員長/名古屋大学情報科学研究科